



平成29年産水稻栽培管理情報 8月号

出穂後の管理で猛暑対策！



昨年の夏は記録的な猛暑でしたが、今年は8月初めまで昨年を上回る高温が続いています。さらに気象庁の長期予報によると、今後も平年を上回る気温が続くと予想されており、高温に対する備えが必要です。

水稻の管理のほか、農作業の際にもこまめな水分補給など十分にご注意ください。

米の品質低下を防ぐ！

米の品質低下の原因となる「白未熟粒(心白粒等)」は、今年のような高温年に発生をしやすいです。白未熟粒発生の原因には、

- ア. 出穂後の高温
- イ. 籾数が多すぎ、一粒当たりのデンプン備蓄が不良になる
- ウ. 登熟期の乾燥ストレス(水分不足)等によりデンプン備蓄が不良になる等があることがわかっています。

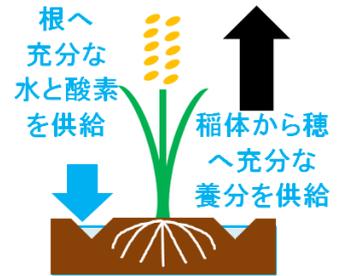
このうち、イ. ウ. は稲体を健全に保つことで軽減できますが、それには水管理が重要です！

【出穂後の水管理のポイント】

- ①序盤(出穂から10日まで)は水を切らさない(できれば、夜間かけ流しで温度を下げる)
- ②中盤(10日後から3週間まで)は間断灌水 (理想は飽水状態)

※①、②により、乾燥ストレスを受けず、根に十分な酸素を供給できるため「高温に強い」稲体を維持できます。以降の乾燥(水を切るのが早すぎる)は、未熟粒発生による低収をまねくので、できるだけ遅い時期まで間断灌水を行ってください。

【飽水状態は理想の環境】



- 足跡に水が残っている状態
- ・田は湿って見える
 - ・触れると手に湿り気を感じる

トビイロウンカの発生に注意！

猛暑年に発生が多い虫です。秋口までに増殖し、坪枯れを起こすことがあります。

圃場に入り発生状況を確認しましょう。

1. まずは、発生状況を確認！

- ・圃場に入り、株元を2~3回程度軽く叩き、右の図を参考に水面に落ちた虫を確認しましょう。

※トビイロウンカは、かたまって発生します。圃場のあちこちを5株ずつ合計25株程度確認してください。

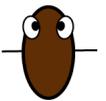
2. 発生が多い場合は、追加防除を行いましょう！

- ・8月下旬に大きな幼虫が株当たり1頭以上、9月上旬に2頭以上、中旬以降に5頭以上いる場合防除しましょう。

※高温少雨により急速に増え、坪枯が発生する可能性が高まります。

トビイロウンカ幼虫の特徴

- ・小さい (成虫でも5mm)
- ・丸っこい
- ・体色は褐色(トビイロ)
- ・水面に落ちると水平に足を広げる



株元に多発している様子

